

# 課題 2

## 「関数と再帰呼び出し」

---

井之上 直也

ディプタラマ ヘンリアン

2019年度プログラミング演習A

# 課題2の目標

---

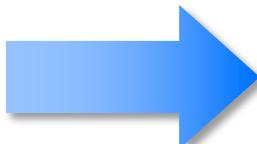
ソーティングアルゴリズムを通して、  
関数の使い方を学ぼう

## ■ ソーティングとは？

データを指定された順序に並べ替えること

例：小さい順に並べる

0, 6, 4, 5, 3



0, 3, 4, 5, 6

# さまざまなソーティングアルゴリズム

---

- 選択ソート
- マージソート
- ヒープソート
- クイックソート
  - ・ ・ ・

ソーティングの結果 자체はどれも同じ

# アルゴリズムによる違いは？

---

- 演算回数（計算時間）
- 必要とするメモリ
- コーディングの簡潔さ

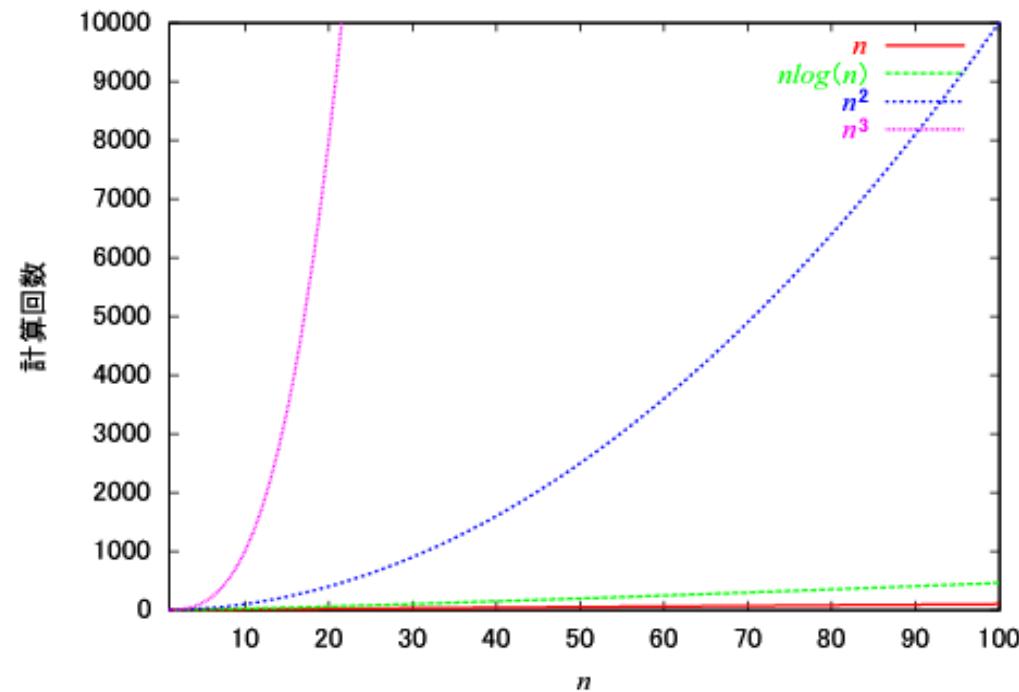
# ソーティングには工夫が必要

大量のデータを扱う場合には、計算方法により計算時間に大きな差が出る

例：

データ数が $n=100$ のとき、演算が100回必要ならば、

- $n^2$ のとき：10,000回
- $n^3$ のとき：1,000,000回



# さまざまなソーティングアルゴリズム

---

- 選択ソート
- マージソート

本課題で出題

- ヒープソート
- クイックソート
  - ・ ・ ・

---

# 選択ソート

# 選択ソートアルゴリズム

	a[0]	a[1]	a[2]	a[3]	a[4]	a[5]	a[6]	a[7]	比較
入力	12	19	3	8	25	18	100	1	

[入力]

a: 整列したい値を格納している配列

n: 配列 a の要素数

最小値1と12  
を置き換え

[手順]

- (1)  $i = 0$  とする
- (2)  $a[i]$  から  $a[n-1]$  までの範囲で最小の要素を探し  $a[i]$  に入れ替える  
( $a[i]$  が最小だった場合は入れ替えは行わない)
- (3)  $i = i+1$  として  $i < n-1$  であれば(2) を繰り返す、そうでなければソートを終了する

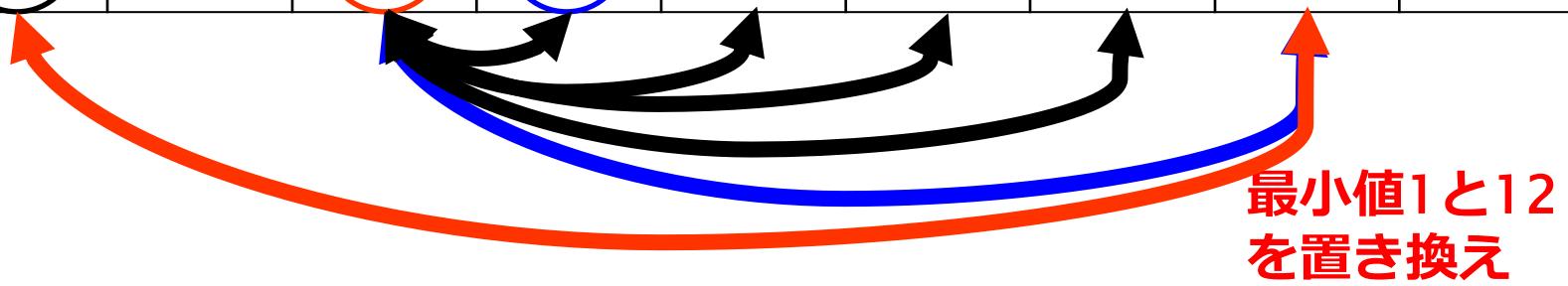
# 先頭と比較して小さければ置き換える

	$x[0]$	$x[1]$	$x[2]$	$x[3]$	$x[4]$	$x[5]$	$x[6]$	$x[7]$	比較
入力	12	19	3	8	25	18	100	1	

3を最小値候補として記憶しておく

3があった $x[2]$ の後から比較する

	$x[0]$	$x[1]$	$x[2]$	$x[3]$	$x[4]$	$x[5]$	$x[6]$	$x[7]$	比較
入力	12	19	3	8	25	18	100	1	



こういう比較をすると、結果的に最小値が先頭に移る

	$x[0]$	$x[1]$	$x[2]$	$x[3]$	$x[4]$	$x[5]$	$x[6]$	$x[7]$	比較
入力	1	19	3	8	25	18	100	12	7回

	a[0]	a[1]	a[2]	a[3]	a[4]	a[5]	a[6]	a[7]	比較
入力	12	19	3	8	25	18	100	1	

	a[0]	a[1]	a[2]	a[3]	a[4]	a[5]	a[6]	a[7]	比較
i=0	1	19	3	8	25	18	100	12	7回

← →  
この並べ替え

	a[0]	a[1]	a[2]	a[3]	a[4]	a[5]	a[6]	a[7]	比較
i=1	1	3	19	8	25	18	100	12	6回

← →  
この並べ替え

	a[0]	a[1]	a[2]	a[3]	a[4]	a[5]	a[6]	a[7]	比較
i=2	1	3	8	19	25	18	100	12	5回

← →  
この並べ替え

結果的にいつも最小値が先頭に移っていく

	x[0]	x[1]	x[2]	x[3]	x[4]	x[5]	x[6]	x[7]	比較
入力	12	19	3	8	25	18	100	1	
i=0	1	19	3	8	25	18	100	12	7回
i=1	1	3	19	8	25	18	100	12	6回
i=2	1	3	8	19	25	18	100	12	5回
i=3	1	3	8	12	25	18	100	19	4回
i=4	1	3	8	12	18	25	100	19	3回
i=5	1	3	8	12	18	19	100	25	2回
i=6	1	3	8	12	18	19	25	100	1回
								合計	28回

# 選択ソートの欠点

---

同じ比較を何回も行うので

無駄が多い・・・

---

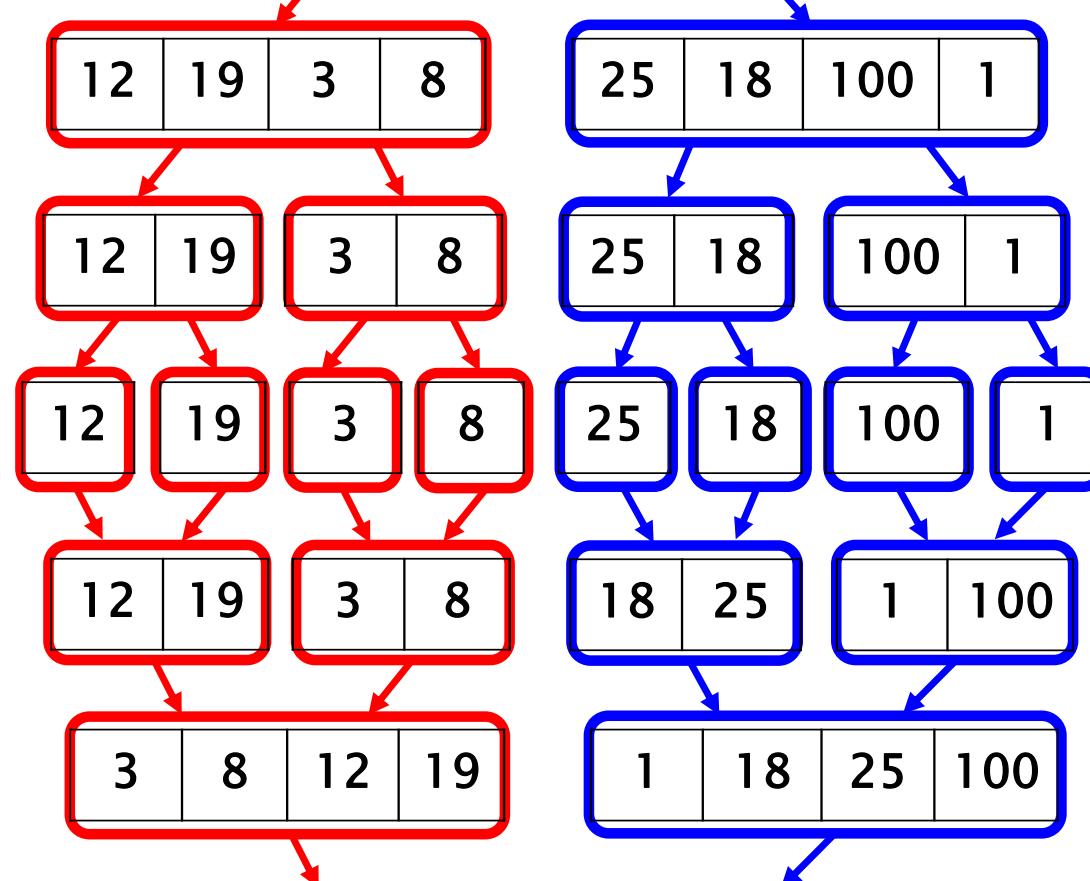
**マージソート**

# マージソートによるソートの流れ

入力 

12	19	3	8	25	18	100	1
----	----	---	---	----	----	-----	---

マージ (merge) :  
混合する, 結合する



半分ずつの要素に分割



1個になるまで分割  
→ 小さい順にソート済

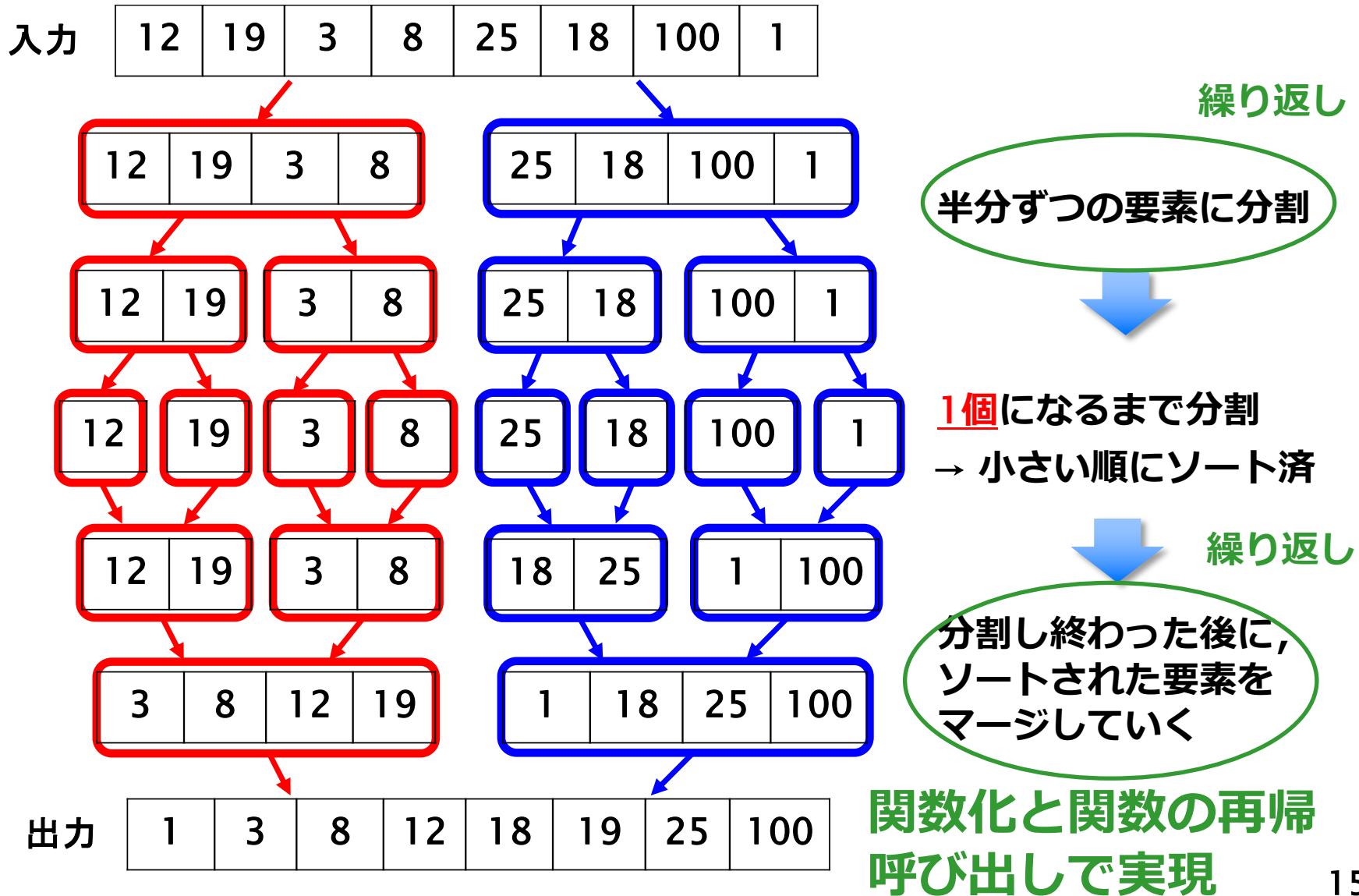


分割し終わった後に、  
ソートされた要素を  
マージしていく

出力 

1	3	8	12	18	19	25	100
---	---	---	----	----	----	----	-----

# マージソートによるソートの流れ



# 再帰呼び出しとは？

---

手続きや関数内で自分自身を呼び出すこと



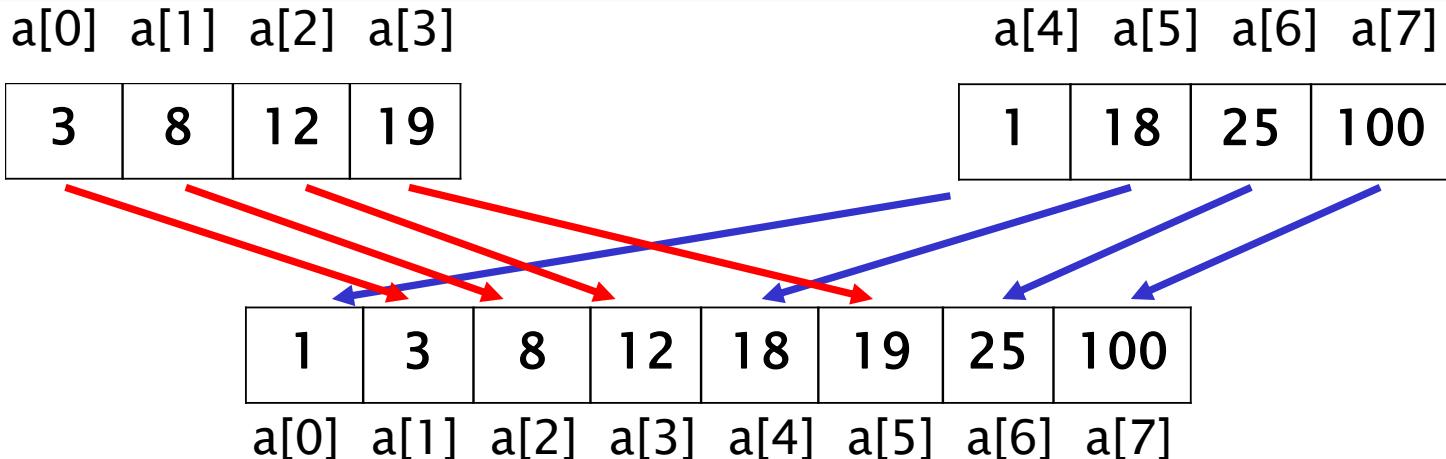
短く簡潔なプログラムを実現できる

具体的には、

- ◆ merge関数
- ◆ mergesort関数

を定義し、必要に応じて再帰的に呼び出す

# merge関数



## [入力]

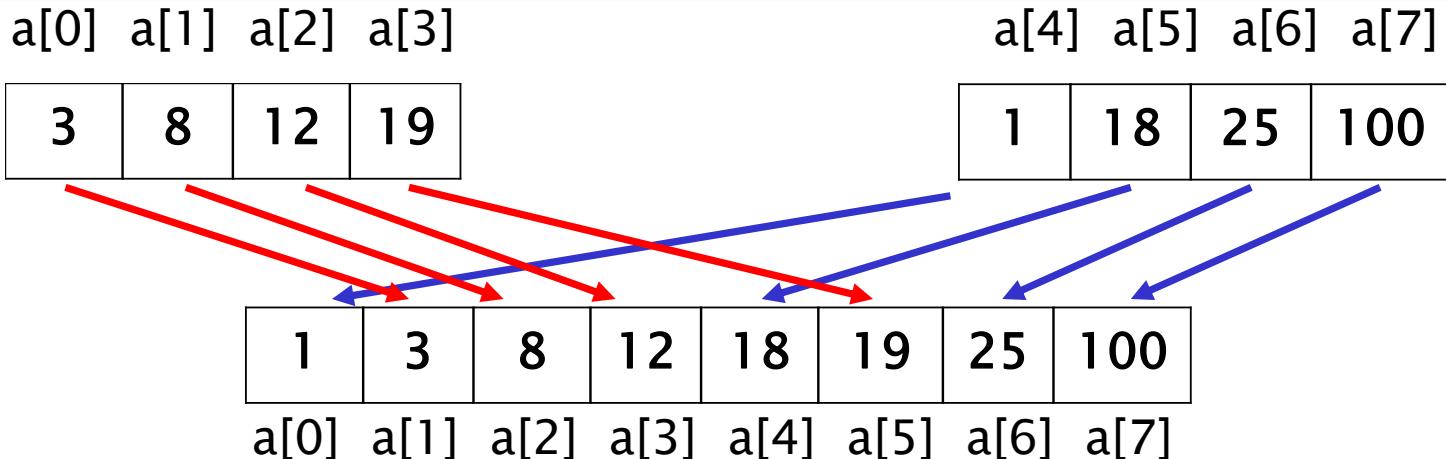
a: 整列したい値を格納している配列(長さ n)

p,q,r: 配列aの部分配列を指定する整数( $p,q,r < n$ )

## [手順]

- (1) 空の作業用配列 T を用意する
- (2) 二つの部分配列の先頭同士を比較し、小さいほうを m とする
- (3) 部分配列から m を取り出し作業用配列 T の最後尾に追加する
- (4) (2),(3)の操作をどちらかの部分配列が空になるまで繰り返す
- (5) 空でない部分配列を作業用配列 T の最後尾にそのまま追加する
- (6) 作業用配列 T の内容を配列 a の該当部分にコピーする

# merge関数



## [入力]

a: 整列したい値を格納している配列(長さ n)

p,q,r: 配列aの部分配列を指定する整数( $p,q,r < n$ )

正確には「作業用配列」と「部分配列」の部分は「線形リスト」と呼ぶ方が適しています.

## [手順]

- (1) 空の作業用配列 T を用意する
- (2) 二つの部分配列の先頭同士を比較し、小さいほうを m とする
- (3) 部分配列から m を取り出し作業用配列 T の最後尾に追加する
- (4) (2),(3)の操作をどちらかの部分配列が空になるまで繰り返す
- (5) 空でない部分配列を作業用配列 T の最後尾にそのまま追加する
- (6) 作業用配列 T の内容を配列 a の該当部分にコピーする

# mergesort関数

a[0] a[1] a[2] a[3] a[4] a[5] a[6] a[7]

12	19	3	8	25	18	100	1
----	----	---	---	----	----	-----	---

aの前半



aの後半

12	19	3	8	25	18	100	1
----	----	---	---	----	----	-----	---

前半

後半



12	19	3	8	25	18	100	1
----	----	---	---	----	----	-----	---

前半

後半



12	19	3	8	25	18	100	1
----	----	---	---	----	----	-----	---

再帰呼び出し：

mergesort関数を繰り返し使う

[入力]

a: 整列したい値を格納している配列(長さ n)

p,q: ソート範囲を指定する整数(p,q < n)

[手順]

- (1) 配列 a のソート範囲を分割する
- (2) それぞれのデータ列をソートする
- (3) ソートされたデータ列をマージする

(2) のソート部分はmergesort 関数を再度用いることで再帰的に処理できる

---

# mergesort関数の動作について 具体例で確認しよう

※ 以降の具体例では、 mergesort() を sort() と記載しています

# マージソートの例題

0 1 2 3 4 5 6 7

入力	12	19	3	8	25	18	100	1	比較回数

# マージソートの例題

0 1 2 3 4 5 6 7

入力	12	19	3	8	25	18	100	1	比較回数
sort(0, 7)									

# マージソートの例題

0 1 2 3 4 5 6 7

入力	12	19	3	8	25	18	100	1	比較回数
sort(0, 3)									
sort(4, 7)									
sort(0, 7)									

sort(0, 7)は、次の配列a, bをマージして得られる。

配列a = sort(0, 3) = { ?, ?, ?, ? }

配列b = sort(4, 7) = { ?, ?, ?, ? }

# マージソートの例題

0 1 2 3 4 5 6 7

入力	12	19	3	8	25	18	100	1	比較回数
sort(0, 1)									
sort(2, 3)									
sort(0, 3)									
sort(4, 7)									
sort(0, 7)									

sort(0, 3)は、次の配列a, bをマージして得られる。

配列a = sort(0, 1) = { ?, ? }

配列b = sort(2, 3) = { ?, ? }

# マージソートの例題

0 1 2 3 4 5 6 7

入力	12	19	3	8	25	18	100	1	比較回数
sort(0, 1)									sort(0, 1)は、次の配列a, bをマージして得られる。 配列a = sort(0, 0) = { 12 } 配列b = sort(1, 1) = { 19 } 要素数が1つの配列はすでにソート済み
sort(2, 3)									
sort(0, 3)									
sort(4, 7)									
sort(0, 7)									

# マージソートの例題

	0	1	2	3	4	5	6	7	比較回数
配列a	12	19	配列b	8	25	18	100	1	
sort(0, 1)	12	19	3	8	25	18	100	1	
sort(2, 3)									
sort(0, 3)									
sort(4, 7)									
sort(0, 7)									

# マージソートの例題

0 1 2 3 4 5 6 7

入力	12	19	3	8	25	18	100	1	比較回数
sort(0, 1)	<u>12</u>	<u>19</u>	3	8	25	18	100	1	1回
sort(2, 3)									
sort(0, 3)									
sort(4, 7)									
sort(0, 7)									

# マージソートの例題

0 1 2 3 4 5 6 7

入力	12	19	3	8	25	18	100	1	比較回数
sort(0, 1)	12	19	3	8	25	18	100	1	1回
sort(2, 3)									
sort(0, 3)									
sort(4, 7)									
sort(0, 7)									

sort(2, 3)は、次の配列a, bをマージして得られる。

配列a = sort(2, 2) = { 3 }

配列b = sort(3, 3) = { 8 }

要素数が1つの配列はすでにソート済み

# マージソートの例題

0 1 2 3 4 5 6 7

入力	12	19	3	8	25	18	100	1	比較回数
sort(0, 1)	12	配列a	3	8	配列b	18	100	1	1回
sort(2, 3)	12	19	3	8	25	18	100	1	
sort(0, 3)									
sort(4, 7)									
sort(0, 7)									

# マージソートの例題

0 1 2 3 4 5 6 7

入力	12	19	3	8	25	18	100	1	比較回数
sort(0, 1)	12	19	3	8	25	18	100	1	1回
sort(2, 3)	12	19	3	8	25	18	100	1	1回
sort(0, 3)									
sort(4, 7)									
sort(0, 7)									

# マージソートの例題

	0	1	2	3	4	5	6	7	
入力	12	19	3	8	25	18	100	1	比較回数
sort(0, 1)	12	19	3	8	25	18	100	1	1回
sort(0, 1) 配列a	12	19	3	8	25	18	100	1	1回
sort(0, 3)	12	19	3	8	25	18	100	1	
sort(4, 7)									
sort(0, 7)									

sort(0, 3)は、次の配列a, bをマージして得られる。

配列a = sort(0, 1) = { 12, 19 }

配列b = sort(2, 3) = { 3, 8 }

# マージソートの例題

	0	1	2	3	4	5	6	7	
入力	12	19	3	8	25	18	100	1	比較回数
sort(0, 1)	12	19	3	8	25	18	100	1	1回
sort(0, 3)	12	19	3	8	25	18	100	1	1回
sort(0, 3)	12	19	3	8	25	18	100	1	
	3	8	12	19					
sort(4, 7)									
sort(0, 7)									

Diagram illustrating the merge sort process:

- Step 1:** Initial array: 12, 19, 3, 8, 25, 18, 100, 1.
- Step 2:** Subarray **sort(0, 1)**: 12, 19, 3, 8, 25, 18, 100, 1. A red callout labeled "配列a" points to the first two elements (12, 19). A blue callout labeled "配列b" points to the last two elements (8, 25).
- Step 3:** Subarray **sort(0, 3)**: 12, 19, 3, 8, 25, 18, 100, 1. Red circles highlight 12 and 19. Blue circles highlight 3 and 8. A red X is drawn over the subarray from index 4 to 7.
- Step 4:** Subarray **sort(4, 7)**: 3, 8, 12, 19. A green box highlights this subarray. A green callout labeled "比較回数 2回" indicates 2 comparisons.
- Step 5:** Subarray **sort(0, 7)**: The entire array 12, 19, 3, 8, 25, 18, 100, 1.

# マージソートの例題

0 1 2 3 4 5 6 7

入力	12	19	3	8	25	18	100	1	比較回数
sort(0, 1)	12	19	3	8	25	18	100	1	1回
sort(2, 3)	12	19	3	8	25	18	100	1	1回
sort(0, 3)	3	8	12	19	25	18	100	1	2回
sort(4, 7)									
sort(0, 7)									

# マージソートの例題

0 1 2 3 4 5 6 7

入力	12	19	3	8	25	18	100	1	比較回数
sort(0, 1)	12	19	3	8	25	18	100	1	1回
sort(2, 3)	12	19	3	8	25	18	100	1	1回
sort(0, 3)	3	8	12	19	25	18	100	1	2回
sort(4, 7)									
sort(0, 7)									

# マージソートの例題

0 1 2 3 4 5 6 7

入力	12	19	3	8	25	18	100	1	比較回数
sort(0, 1)	12	19	3	8	25	18	100	1	1回
sort(2, 3)	12	19	3	8	25	18	100	1	1回
sort(0, 3)	3	8	12	19	25	18	100	1	2回
sort(4, 5)									
sort(6, 7)									
sort(4, 7)									
sort(0, 7)									

# マージソートの例題

	0	1	2	3	4	5	6	7	
入力	12	19	3	8	25	18	100	1	比較回数
sort(0, 1)	12	19	3	8	25	18	100	1	1回
sort(2, 3)	12	19	3	8	25	18	100	1	1回
sort(0, 3)	3	8	12	19	25	18	100	1	2回
sort(4, 5)	3	8	12	19	25	18	100	1	
sort(6, 7)									
sort(4, 7)									
sort(0, 7)									

配列a

配列b

# マージソートの例題

0 1 2 3 4 5 6 7

入力	12	19	3	8	25	18	100	1	比較回数
sort(0, 1)	12	19	3	8	25	18	100	1	1回
sort(2, 3)	12	19	3	8	25	18	100	1	1回
sort(0, 3)	3	8	12	19	25	18	100	1	2回
sort(4, 5)	3	8	12	19	<u>18</u>	<u>25</u>	100	1	1回
sort(6, 7)									
sort(4, 7)									
sort(0, 7)									

# マージソートの例題

0 1 2 3 4 5 6 7

入力	12	19	3	8	25	18	100	1	比較回数
sort(0, 1)	12	19	3	8	25	18	100	1	1回
sort(2, 3)	12	19	3	8	25	18	100	1	1回
sort(0, 3)	3	8	12	19	25	18	100	1	2回
sort(4, 5)	3	8	12	19	18	25	100	1	1回
sort(6, 7)									
sort(4, 7)									
sort(0, 7)									

# マージソートの例題

	0	1	2	3	4	5	6	7	
入力	12	19	3	8	25	18	100	1	比較回数
sort(0, 1)	12	19	3	8	25	18	100	1	1回
sort(2, 3)	12	19	3	8	25	18	100	1	1回
sort(0, 3)	3	8	12	19	25	18	100	1	2回
sort(4, 5)	3	8	12	19	1	配列a	100	1	配列b
sort(6, 7)	3	8	12	19	18	25	100	1	
sort(4, 7)									
sort(0, 7)									

# マージソートの例題

0 1 2 3 4 5 6 7

入力	12	19	3	8	25	18	100	1	比較回数
sort(0, 1)	12	19	3	8	25	18	100	1	1回
sort(2, 3)	12	19	3	8	25	18	100	1	1回
sort(0, 3)	3	8	12	19	25	18	100	1	2回
sort(4, 5)	3	8	12	19	18	25	100	1	1回
sort(6, 7)	3	8	12	19	18	25	1	100	1回
sort(4, 7)									
sort(0, 7)									

# マージソートの例題

0 1 2 3 4 5 6 7

入力	12	19	3	8	25	18	100	1	比較回数
sort(0, 1)	12	19	3	8	25	18	100	1	1回
sort(2, 3)	12	19	3	8	25	18	100	1	1回
sort(0, 3)	3	8	12	19	25	18	100	1	2回
sort(4, 5)	3	8	12	19	18	25	100	1	1回
sort(6, 7)	3	8	1	配列a	18	25	1	100	配列b
sort(4, 7)	3	8	12	19	18	25	1	100	
sort(0, 7)									

# マージソートの例題

	0	1	2	3	4	5	6	7	
入力	12	19	3	8	25	18	100	1	比較回数
sort(0, 1)	12	19	3	8	25	18	100	1	1回
sort(2, 3)	12	19	3	8	25	18	100	1	1回
sort(0, 3)	3	8	12	19	25	18	100	1	2回
sort(4, 5)	3	8	12	19	18	25	1	100	1回
sort(6, 7)	3	8	12	19	18	25	1	100	1回
sort(4, 7)	3	8	12	19	18	25	1	100	
sort(0, 7)					18	25	1	100	
					1	18	25	100	

比較回数 3回

# マージソートの例題

0 1 2 3 4 5 6 7

入力	12	19	3	8	25	18	100	1	比較回数
sort(0, 1)	12	19	3	8	25	18	100	1	1回
sort(2, 3)	12	19	3	8	25	18	100	1	1回
sort(0, 3)	3	8	12	19	25	18	100	1	2回
sort(4, 5)	3	8	12	19	18	25	100	1	1回
sort(6, 7)	3	8	12	19	18	25	1	100	1回
sort(4, 7)	3	8	12	19	1	18	25	100	3回
sort(0, 7)									

# マージソートの例題

0 1 2 3 4 5 6 7

入力	12	19	3	8	25	18	100	1	比較回数
sort(0, 1)	12	19	3	8	25	18	100	1	1回
sort(2, 3)	12	19	3	8	25	18	100	1	1回
sort(0, 3)	3	8	12	19	25	18	100	1	2回
sort(4, 5)	3	8	12	19	18	25	100	1	1回
sort(6, 7)	3	8	12	19	18	25	1	100	1回
so	配列a		3	8	12	19	1	18	25
sort(0, 7)	3	8	12	19	1	18	25	100	

配列b

# マージソートの例題

0 1 2 3 4 5 6 7

入力	12	19	3	8	25	18	100	1	比較回数				
sort(0, 1)	12	19	3	8	25	18	100	1	1回				
sort(2, 3)	12	19	3	8	25	18	100	1	1回				
sort(0, 3)	3	8	12	19	25	18	100	1	2回				
sort(4, 5)	3	8	比較回数 6回				比較なし						
sort(6, 7)									回				
sort(4, 7)									回				
sort(0, 7)	3	8	12	19	1	18	25	100					

# マージソートの例題

0    1    2    3    4    5    6    7

入力	12	19	3	8	25	18	100	1	比較回数
sort(0, 1)	12	19	3	8	25	18	100	1	1回
sort(2, 3)	12	19	3	8	25	18	100	1	1回
sort(0, 3)	3	8	12	19	25	18	100	1	2回
sort(4, 5)	3	8	12	19	18	25	100	1	1回
sort(6, 7)	3	8	12	19	18	25	1	100	1回
sort(4, 7)	3	8	12	19	1	18	25	100	3回
sort(0, 7)	1	3	8	12	18	19	25	100	6回
								合計	15回

# 問題2-1 関数と動的メモリ確保

`int func( int x );` ← 関数のプロトタイプ宣言  
戻り値の型 関数名 (引数の型)

```
int main()
{
    int a;
    printf( "%d * 2 = %d", a, func(a) );
    return 0;
}
```

戻り値の型がint型の関数の戻り値はint型の値として扱える

`int func( int x )` ← 関数の定義  
{  
 `return 2 * x;` ← returnで値を返す  
}

関数は使う前に宣言をする必要がある

# 問題2-1 関数と動的メモリ確保

---

```
int func( int x ) ← 戻り値の型をint型とする場合
{
    return 2 * x;
}

double func(double x) ← 戻り値の型をdouble型とする場合
{
    return 2*x;
}

void func(int x) ← 戻り値がない場合
{
    printf("%d\n", 2*x);
}
```

目的とする戻り値の型に従って適切に関数を決めよう

# (補足) main関数の戻り値とは・・・

先ほどの例（赤字に注目）

```
int main() ← 戻り値の型がint型として定義されている
{
    int a;
    printf( "%d * 2 = %d", a, func(a) );
    return 0; ← プログラムの最後で0を返す
}
```

- 戻り値の型をint型とするmain関数から返される値はプログラム終了時にOSに渡されるエラーコードになる
  - ◆ 0ならば正常終了
  - ◆ 0以外ならば異常終了

# 問題2-1 関数と動的メモリ確保

---

## メモリ確保の問題

- 変数宣言時に余裕を持って記憶領域を確保しなければならない
- 確保した領域よりも1バイトでも多く使うとエラーになる

## 動的メモリ割り当て (malloc, free)

- 必要なメモリを必要なときに空いているメモリ空間から確保し、不要になつたら解放する

# 問題2-1 関数と動的メモリ確保

void \*malloc(size\_t size)

size\_t は、符号のない整数型 (unsigned intと同じ)

戻り値の型は、void型へのポインタ

使用例：x[10]のためのメモリ領域をmallocで確保

int \*x:

x = (int \*)malloc(sizeof(int) \* 10);

if (x==NULL) {

printf("メモリが確保できません\n");

return 1;

}

(処理)

free(x);

int型の大きさの要素  
を10個確保する

# 問題2-1 関数と動的メモリ確保

## ■ C言語の最近の追加機能 (C99)

(プログラム例)

```
void func() {
    int n;
    scanf("%d", &n);
    int d[n];
    ...
}
```

メモリの開放も自動で行われて便利

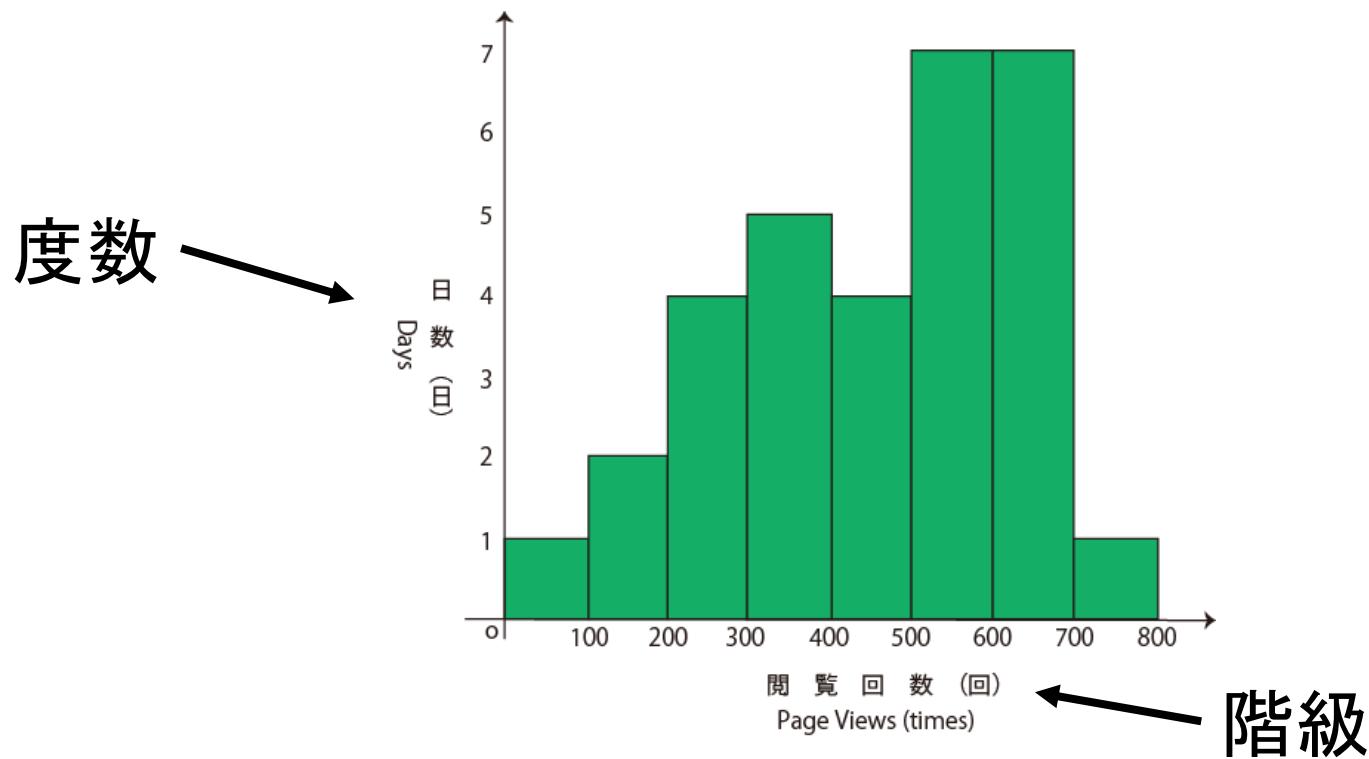
### 注意点

- `malloc`による方法と違い、グローバル変数としては使えない  
(関数内部でしか動作しない)
- コンパイラによってはきちんと対応しきっていない  
(使えない場合がある)

問題に指定のある場合には必ず`malloc`を用いること

# 問題2-1 ヒストグラム

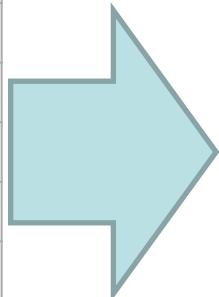
- ヒストグラムとは、片方の軸に度数、もう片方の軸に階級（ビン）をとったグラフの一種である



ウィキペディア日本語版の記事「ヒストグラム」(当記事)の2013年1月の閲覧回数

# 問題2-1 ヒストグラム

日	閲覧回数	日	閲覧回数
1	78	16	625
2	126	17	606
3	156	18	483
4	231	19	377
5	215	20	370
6	304	21	587
7	484	22	667
8	544	23	643
9	566	24	756
10	545	25	505
11	478	26	436
12	258	27	399
13	225	28	611
14	373	29	679
15	620	30	575
		31	565



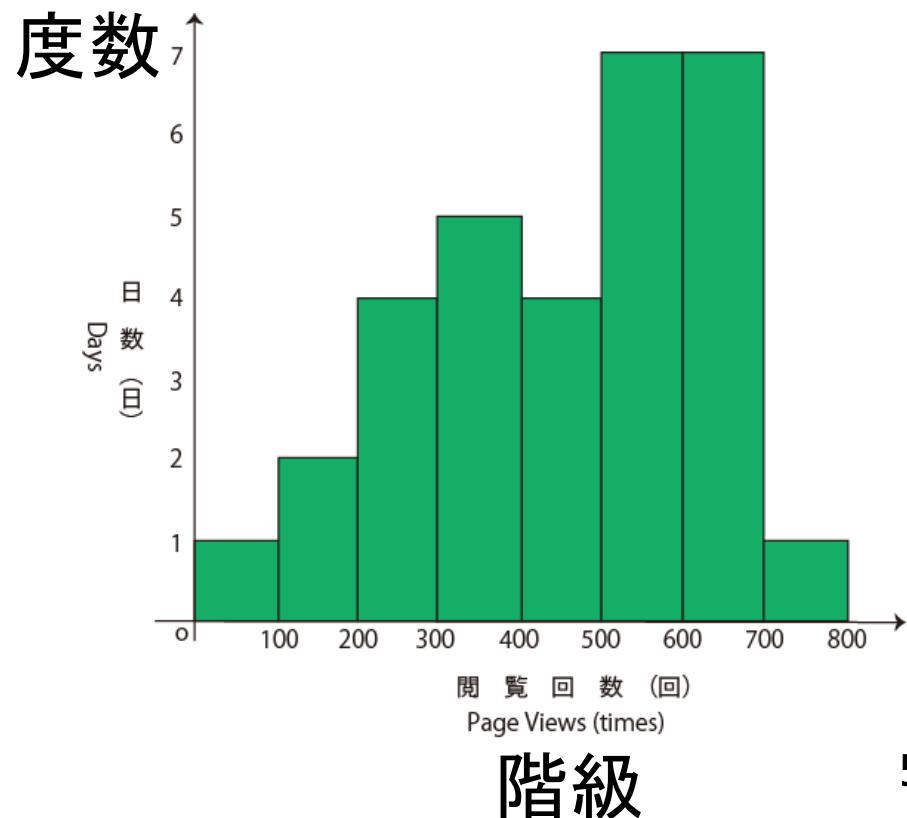
階級	度数
閲覧回数	その回数を記録した日数
0 - 99	1
100 - 199	2
200 - 299	4
300 - 399	5
400 - 499	4
500 - 599	7
600 - 699	7
700 - 799	1

ウィキペディア日本語版の記事「ヒストグラム」(当記事)の2013年1月の閲覧回数

# 問題2-1 ヒストグラム

- ヒストグラムとは、片方の軸に度数、もう片方の軸に階級（ビン）をとったグラフの一種である

階級	度数
閲覧回数	その回数を記録した日数
0 - 99	1
100 - 199	2
200 - 299	4
300 - 399	5
400 - 499	4
500 - 599	7
600 - 699	7
700 - 799	1



# 問題2-1 四捨五入

## ■ 型変換（キャスト）

データを一時的に別の型に評価したいときに利用する

例：

int a=5, b=2; c;

double d, e=12.345;

c = 1/b;

整数除算なので c は 2 になる

d = a/b;

整数除算なので d は 2.0 になる

d = (double)a/b;

a の値が double 型なので d は 2.5 になる

d = e;

d は 12.345

c = (int)e;

(int) の効果で小数部切捨てになり c は 12

d = (int)e;

(int) の効果で小数部切捨てになり d は 12.0

d = e - (int)e;

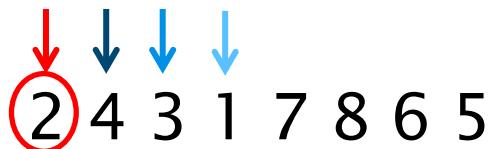
小数部取り出しで d は 0.345 になる

型変換（キャスト）を使った四捨五入を考えよう

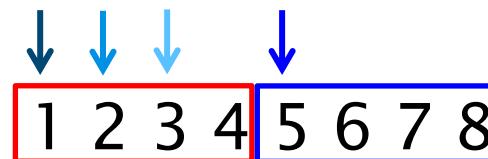
# 問題2-2, 2-4, 2-5 比較回数の解析

- 「配列データ同士の大小関係の比較」の回数を解析

選択ソート



マージソート



要素数が増えたとき、比較回数はどれくらい増えるか？

- 配列データは、`malloc` 関数を使って動的に確保する
- データファイルの先頭にデータ数が格納されている
- ソートするデータは、先頭以降のデータであることに注意する

# 問題2-3 再帰呼び出し

- 関数内で自分自身を呼び出すこと

例：階乗計算

```
int kaijyo(int n)
```

```
{
```

```
    if (n==1)
```

```
        return 1;
```

もし $n$ が1なら答えは1

```
    else
```

```
        return n*kaijyo(n-1);
```

そうでなければ答えは $n \times (n-1)$ の階乗

```
}
```

漸化式を解くために利用できる

階乗の計算は、以下のような漸化式で表現できる

$$\underline{f(n)} = \begin{cases} 1 & n = 1 \\ n \cdot \underline{f(n-1)} & otherwise \end{cases}$$

# 問題2-6, 2-7 比較回数の理論値の計算

---

## ■ 選択ソート

- ◆ 一般式（要素の個数nで表す）

## ■ マージソート

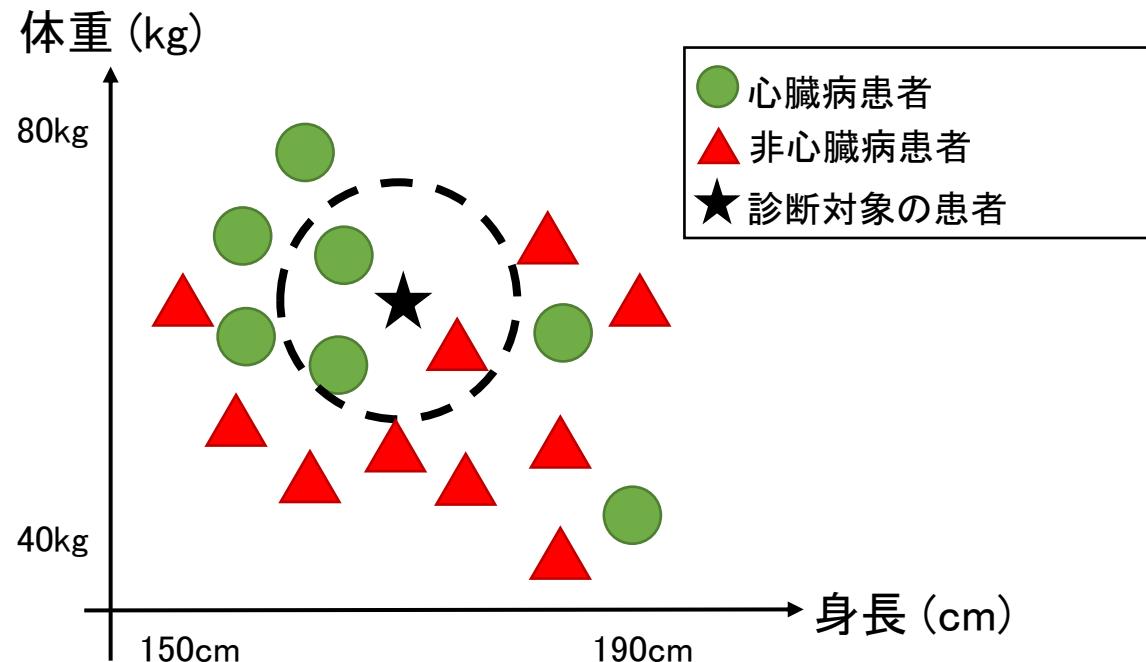
- ◆ 最大値・最小値

- ◆ 漸化式

## ■ 理論値と実験値の比較

## 問題2-8 k近傍法による自動健康診断【発展問題】

- 目標: 過去の診断事例から, 患者が心臓病か否かを自動判定する人工知能を作る
- 方法: k近傍法を利用
  - ◆ 診断対象の患者の特徴に近い  $k$  人の過去の診断を参照
  - ◆ 多数決により診断結果を決める



# 問題2-8 k近傍法による自動健康診断【発展問題】

## ■ 入力データ: 過去の診断データ + 診断対象の患者

200	... 過去の診断データの数 (n)
5	... 患者の特徴を示す数値データの数 (d)
63.0 1.0 1.0 145.0 233.0 0	... 過去の診断データ ( $(d+1)$ 個 × n 件)
67.0 1.0 4.0 160.0 286.0 1	
68.0 1.0 4.0 120.0 229.0 1	
...	
48.0 1.0 2.0 110.0 229.0 ...	

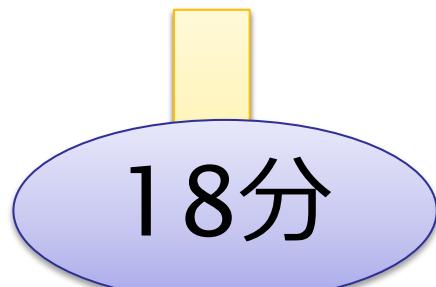
... 診断対象の患者の数値データ (1件)

## ■ ポイント

- ◆ `malloc` 関数を用いて、過去の診断データの格納に必要なメモリ領域（2次元配列）を動的に確保する
  - ◆ k 近傍法に基づく自動健康診断を実現するための `knn_diag` 関数を作成する（ソートの応用により実現できる）
- これまでに覚えた動的メモリ確保、ソートのテクニックを駆使してプログラムを書いてみよう

# 面接について

2週目



4週目



2週目でのみ採点

問題2-1, 2-2, 2-3

問題2-4, 2-5, 2-6, 2-7  
発展問題 2-8

# 課題2の配点

---

- 注意: 多くの問題は、テストケースに合格するだけでは満点になりません！
  - ◆ 問題2-2, 2-3, 2-5, 2-7, 2-8
    - テストケースに合格: 5 点
    - 仕様満足: 5 点
  - ◆ 問題2-1, 2-4
    - テストケースに合格+仕様満足: 5 点
  - ◆ 問題2-6
    - レポート: 10 点
- 必ず課題の要求仕様を満たすプログラムを作成すること

# 面接を受けるときの注意事項

---

- C言語の用語や関数の動作をあらかじめ調べてくること
  - ◆ プログラムのソースコードに説明を書いてかまわないので、面接時に説明できるようにすること
- 課題に関する問題文をきちんと読むこと
  - ◆ 問題文を読むことが解答への近道になることもあります
- 2週目の面接時に、途中だったとしても、取り組んでいる問題を持ってきましょう
  - ◆ 困っていることやわからないことがあれば、面接の時にアドバイスをするので、途中のプログラムでも遠慮なく持ってきましょう